手放すな常に防空頭布

敵を眼前に控へて國民の敵愾心もいよいよ強烈にならねばならぬ折、いまも以て防空服裝が喧しくいはれねばならぬのは何故か、國民各自に今日の空襲事情に透徹した認識があればおよそ防空服裝などは容易に解決できてゐるはずの問題だ、防空服裝に對して國民が指導されるときではない、各人の不斷の心構へが防空服裝を完全にする、緊迫した情勢に直面する國民の緊張心がそのまゝ防空服裝に現れ、敵何時なりとも來れの不退轉心とならねばならぬ、本土も戰場だ

今や國內も戰場だ

背に負ふ愛兒にも頭巾

危い肌むきだし

防空必携は警戒警報と同時に「防空服裝を着用」空襲警報とともに「防空用服裝を完全にする」と規定し、警報が發令されないかぎりは防空服裝を着裝せずともよいことになつてゐるが、今日すでに常時警戒警報がわれわれの日常の心構へとなつてゐるとき常日頃から防空服裝を着用或は携行するのは當然だ、まづ第一に皮膚を露出せぬこと、これは夏中はかなり苦痛だが、これをやらぬと大怪我を免れぬ、特に婦人の簡單服や上衣の袖の腕までしかないのや座蒲團頭巾の薄いのは注意を要する

北九州の負傷者の實例をみても顏、手、足など露出箇所をやられ防空服裝をしてゐない老人、子供など非防空活動者や病弱者は殆んど死んでゐた、夏季の上着なしは今年も默認されたが、戰局の現段階を考へれば再檢討の要があらう、上衣なしで外出する場合男子ならば鞄、女子は提袋に上衣や防空頭巾などを入れて携行したい

鐵兜には垂れ布

愛知縣防空本部も「今日の婦人の身だしなみはもし外出する場合にもモンペ、手拭など防空上必要品を携帶することだ、口紅や白粉が身を守る何の助けにもならぬことを銘記せねばならぬ」といつてゐる

肩まで掩る頭巾

座蒲團頭巾の效果は北九州で保證された、北九州ではそのため多くの人が助かつてゐる、これは何センチと決めてはないが厚ければ厚いほどよく肩まで掩ふことが是非必要、鐵兜も防空活動上極めて效果大であつて、鐵兜も頭巾同樣肩まで掩ふ垂れをつけておくやう工夫したい、男子は卷脚絆、女子はモンペだが、モンペも卷脚絆をつければさらによい

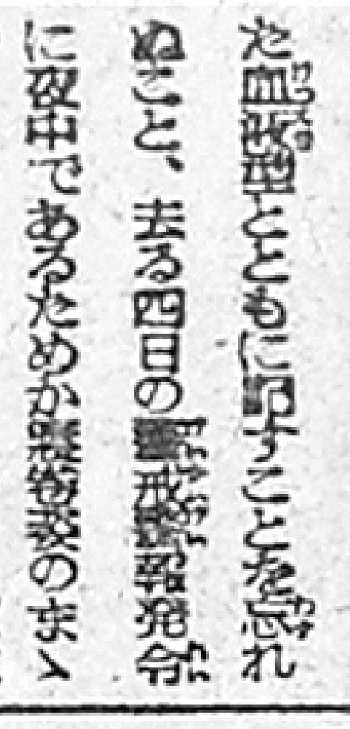
女子に多い素足

過日の警戒警報で最も遺憾なことは女子の大部分が座蒲團頭巾を携行せぬこと、モンペを着用しながら素足、腕を露はに出してゐるといふ不徹底さ、それともう一つは母親だけ服裝を整へてゐるのに背負つたり連れてゐる子供には平常のまゝの服裝をさせてゐる——といふ現象は結局形式に流れて實質の伴はぬ認識の缺如ぶりを暴露してゐた、ぜひ子供の防空服裝も徹底的に行ふことだ、待避を便にするのは完全な服裝をしてはじめて可能だ、爆風による腹部、胸部の負傷者が多かつたのも北九州で多くあつたことである、胸當て、腹式の竹で編んだものを胸、腹部に當てておくことも大切である、殊に警防團などの防空活動第一線者はこれが必要だ

いまだに絶えぬこの矛盾

服裝には氏名を

身許票も徹底的に實行せよ、死傷者が何處の誰であるかの判斷に困つた北九州での教訓を肝に銘じて頭の上から足の先まで身につけた血液型とともに記すことを忘れぬこと、去る四日の警戒警報發令に夜中であるためか寢卷姿のまゝ路上に飛出した者もあつたが警戒警報はいつ空襲警報に移るかもしれぬ、われわれの武器は防空服裝なのだ、古來わが武士道は陣中夢寐の間も武裝を解かぬ心がけを尊んだ、平常における防空準備に怠るところあれば、いざの場合混亂に陥るばかり、寸分の油斷もなく「敵機來れ」の待つある態勢を完備しておかねばならぬ



化粧道具の代りに防空頭巾を

今夕一億滅敵の祈り

石淸水八幡・祈願の劍前線へ

元寇の役に龜山上皇が尊い御身を國難に代へさせ給はんと石淸水八幡宮に御參籠遊ばされて蒙古の神助を祈らせ給ふた大軍擊滅の御事跡を偲び奉り、畏き邊りより祭祀料御下賜の優渥なる御沙汰を拜して去る七日から嚴かに執行された官幣大社石淸水八幡宮の神威發揚滅敵大祈願祭はいよいよ十三日で滿願となるが、この夜八時神靈を御慰め申すお神樂祭は大御前で奉行されるのでこの時刻を期して全國民は一齊に滅敵の祈りを捧げることになつてゐる、なほ七日間こゝで熱禱を籠められた滅敵の劍百五十口（刃渡り七寸）は滿願と同時に第一線部隊長をはじめ、東條首相その他國內の重要地位にある人々へ贈られる

參拜者……中部軍司令官飯田中將、舞鶴機關學校長、飯沼神祇院副總裁、宮內大臣代理吉田宮內省京都地方事務所長

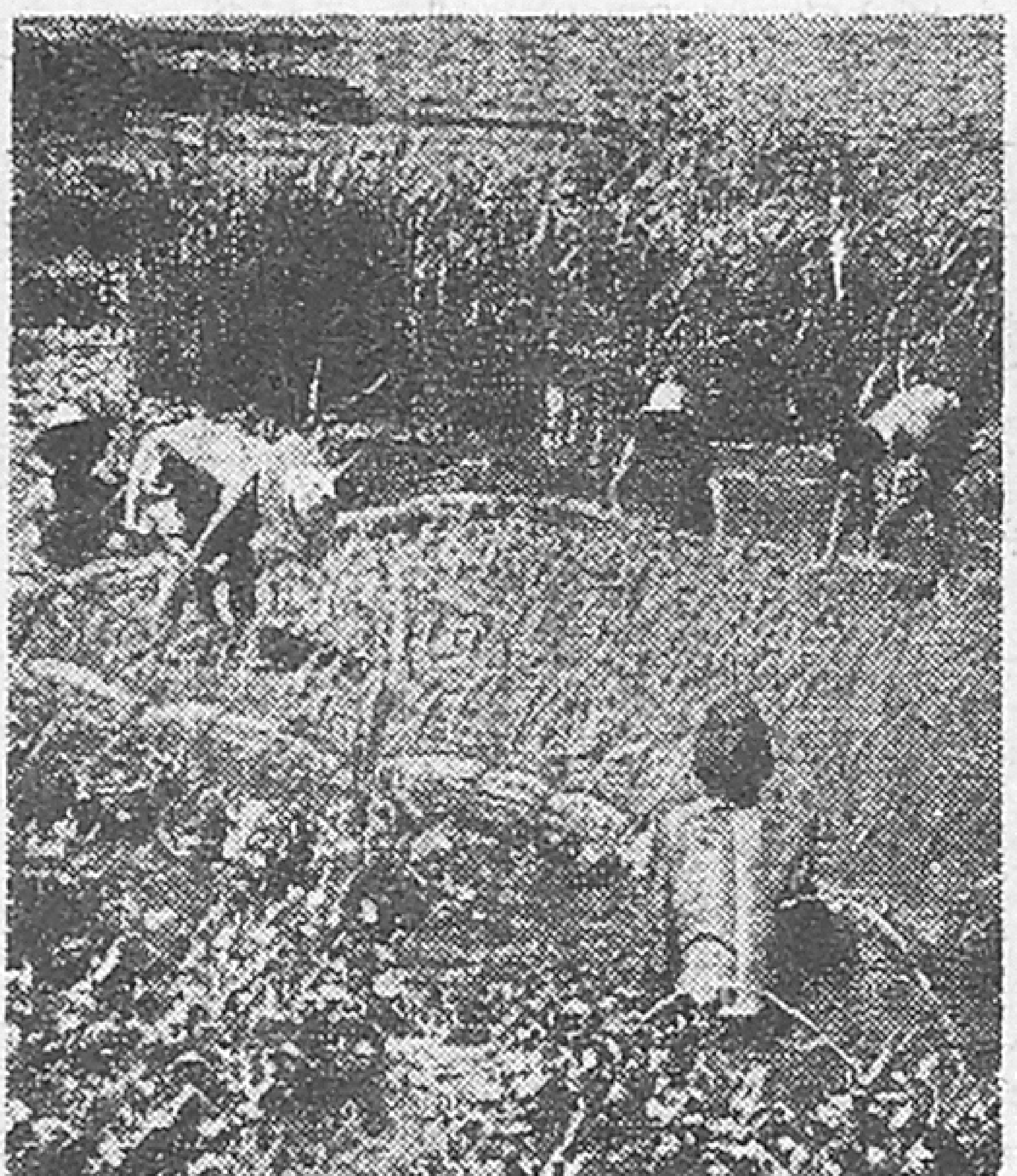
學徒だけの工場

山一航空機で初の試み

勤勞學徒の生產意欲は兵器增產に數々の美しい話題を提供してゐるが、工場側の理解と勤勞學徒の熱意が麗しくも融けあつてこゝに勤勞學徒だけの工場が實現する——

山一航空機〇〇工場では去る四月半田商業の勤勞學徒を受入れたが學徒の作業ぶりは眞劍そのもので生產能率もグングン上昇するので同工場幹部は將來の生產はすべて學徒に責任を持たせるべきだと、勤勞學徒のうち二十名を東京の技術員養成所へ派遣し二ケ月間の訓練を受けさせたが、このほど工場へ歸還、生產中堅人物としてそれぞれの位置に配置された、この同僚の指導は全勤勞學徒を刺戟し能率はグングンと伸び、工場幹部をして學徒だけの工場にしようとの氣持をいよいよ固めさせてゐるもので、愛知縣學徒勤勞動員本部では語る

學徒の生產意欲はますます伸ばさねばならぬ、工場側の理解が深ければ深いほど學徒の生產能率はあがる同工場には更に多數の勤勞學徒を配置し學徒だけの工場にしてもよいと考へてゐる



石川から勤勞學徒

石川縣下中等校生徒の學徒勤勞報國隊員は八月一日から愛知縣下の軍需工場に進駐する

岡本工業にプール竣工

岡本工業第〇〇工場ではプールが出來上つたので全工員が晝食と午後二回の休憩各四十分を利用して水泳訓練を實施、作業能率をあげる

三菱發動機青年校の先生が職場進出

三菱發動機青年學校では時局に鑑み生徒全部を職場に配置しつゝあつたが、先生達も去る七日の支那事變記念日を期して丸山校長を隊長に挺身隊を組織、一齊に工員として現場に進出、中には山田武司（前一中、中川中學教頭）鍋島三（前輪島中學教頭）狩野貫一（前新潟高女教諭）諸教諭ら六十歳前後の先生達も率先參加し熟成工はもとより學徒報國隊、一般工員も異常な刺戟を受け大いに能率をあげてゐる

一等賞はお母さん

月に五十六日分働く

母子五人 皆動競爭

一家五人が皆勤を競ふ珍らしい兵器增產一家に見事「一ケ月一人で五十六日分勤務」といふ新記錄が樹立された、一宮市外魚町貫船前服部庫七さん（六二）方では妻女のさいさん（四七）が岡本工業へ、長男仙吉さんが愛知時計へ、次男卓夫さん（二七）と長女二子さん（一八）が岡本工業、三男繁二さん（二〇）が川崎航空へ六人家族の五人まで兵器增產に敢鬪してゐるが出動中の留守宅を守る庫七さんも隣組世話係を勤めながら五人の勤め振りを勵ましてゐるといふ增產一家「この戰局に怠けてゐられるか」と親子五人の出勤競爭まで始まり自宅に出勤表を掲げて成績には一重丸をつけて半日分に計算、徹夜は三重丸をつけて一日分加算したところ六月分は「五十六日分勤務」となり百八十七名の新記錄を打樹てたが、そのうちさいさんが一等を獲得、繁二さんを除いてあとの三人も百%の出勤ぶりといふ成果だつた、緊張加はるこの七、八月も十割增產を成就しようと一家は大張切りの意氣ごみだ、一等賞のさいさんの話

母子五人は血を流して戰つてゐられる勇士を偲んで增產を頑張つてをりますが、末弟が身体を少し弱くしましたので惜しいことに一家總皆勤は出來ませんでした私は炊事の關係で一日おきに出勤して徹夜してゐますが今月こそ皆勤しますよ【寫眞は同家の皆勤表】

家郷だより

長野 飯田市追手町國民校では竹で造つた簡易防毒筒を用意、"ガス"といへばすぐ口にあて防毒室へ待避する、これは竹筒の節に小穴をあけ消炭と布切れをつめたものである

三重 度會郡南島の島津、吉津兩漁業會の夏漁獲は鰹以外アヂ、小鯖、カマスなど雜魚が一日數百貫あり各漁場とも活況

岐阜 惠那郡中津町農業會では縣農會の隣組配給組織中、全縣では稀有な物品共同販賣所は十六、七日頃開所する

奈良 縣下の天理教信徒で結成する"いざひのきしん隊"五百名は福岡縣の炭礦勤勞に第一陣が二十日出動

戰沒者に祭粢料傳達式

滿洲事變以降の戰病死者で軍事保護院療養所、國立結核療養所、縣の傷痍軍人療養所、居宅療養中の死沒者に對し今回畏くも天皇陛下より祭粢料を皇后陛下より祭粢料、御紋菓並に御菓子下賜の有難き御沙汰を拜したので愛知縣では十九日午前十時半縣正廳で傳達式を擧行、吉野知事より關係市町村長へ傳達、關係市町村長より各遺族へ傳達するが縣下の光榮者は祭粢料故岡本留一軍曹（愛知郡豐明村）はじめ十六名、御紋菓並に御菓子故丹羽政二大佐（名古屋市西區見宝町）はじめ五百七十六名である

工員に贈る朝風呂

深夜の剩る電力を活用

愛知縣では昨今の燃料不足に對處して中部配電、商工經濟會、名古屋市內湯屋商業組合や各工場代表と協議の結果、豐水期深夜だけの剩餘電力を利用して大工場では個々に小工場では隣組組織で電熱風呂を沸かすことになつた、湯屋と工場では近く試驗的に實行するが二直制作業中の深夜から朝までに成るべく最小限の電熱で沸かし、これを深夜從業者の交代時迄に入浴させようといふ寸法、設備も至極簡單で試驗の結果を期待する

中部配電の話 增產に支障なく、この點は安心願ひたい今月から九月までは豐水期で夜間一部發電を停止してゐる位ですから、停止分の活用だけで足りませう、風呂は夜十一時から翌朝までに沸かし七時から入浴させ一般人には利用させぬ

卷藁筏うかせて

池に創意の稻田

如意青年團の決戰食糧增產譜

創意工夫によつて狹いながらも溜池化して稻田となる——愛知縣西春日井郡楠村大字如意青年團は一粒も多く決戰食糧確保のためいままで放任されてゐた寺前（田畑）の池に目をつけ各自藁と古竹、青竹など持ち寄つて「卷藁筏」を作り泥土をすくひ上げて縱六尺の池中に十六坪の稻田を造りあげ水不足の折から水田開發に見事な成果を擧げた、方法はしやしんのとほり藁縄で竹を芯にした卷藁を作りこれを組合せ、古筵を張つて卷藁筏とし、その中へ池の底から何千年來埋れてゐた泥を掬ひ上げ、約四寸位の作り土とした筏田を作りこれに苗を植付けるもので、この土はいろいろな物が腐れ込んで肥料分が十分にあるので、施肥の必要なく又雜草の種子を含有してをらぬので除草の勞力も要らない、そして水をかける要もなく旱魃の心配もない、減水すればこの筏は低くなり、增水すれば高くなるばかり、秋ともなれば減水するので池の底に立派な黄金が稔るわけだ「これは名案です、秋の收穫もよく、熱の吸收も良いと思はれるし、藁の腐敗程度も稻藁より持ちこたへます」と同村農會の技手は激賞した【寫眞は浮田の田植】

職場の怠け者退治

彥根重工業で"監督當番"

彥根重工業ではとかく工場長とか責任者など"監督の眼"の屆かぬ時に心をゆるめやすいのが生產戰士一般の弱點なので工員の相互自戒により增產隘路を切り拔けるため四月一日から「監督當番」を設けて工員の增產魂を引締めてゐる、各職場から選ばれた數名の當番者は工員には一切祕密で自ら工員の仕事に勵みながら各職の目を光らせて工員の勤怠狀況、資材の取扱ひぶりその他生產の敵となる一切の行動を監視し、公平無私を旨とした報告書を作成、直接重役へ提出する任務をおびるものであつて、工場側ではこの報告を一つの參考資料中に加へて賞罰を行ふ方針で、なかなか能率をあげてゐる

病軀の倅を叱り 增產陣へ送還す

國を憂へる父親が病に惱む愛兒を叱咤、激勵、療養に歸宅したのを一夜の暇も與へず直ちに增產戰列へ歸還させた佳話——岐阜縣武儀郡美濃町の古田秀夫君は東海航空機會社で增產に敢鬪中病に冒され醫師から歸宅療養を勸められて歸宅したところ、父親の喜一さんは病狀を精細に觀察した上、激しい戰局の樣相を說き「お前はまだ氣の張り方が足りない、增產魂で病を征服せよ」と愛情こめ悲壯な言葉で說得し、一家の生活も憂へず勤社せしめた、父の切言に心機一轉の秀夫君は見事病を征服、再び增產戰列に敢鬪してゐるが、會社ではこの父親の態度に感激、增產美談として今度表彰した

青年校生勤報

第一陣は女子

愛知縣では昨報の如く公立青年學校生徒を中學生に準じて勤勞動員することになり、第一陣として祖父江實科女學校、岩倉女學校の生徒を動員した、身体の頑健な者は通年、他は短期動員として工場に配屬する

麥酒配給會社の新發足

大藏省では麥酒配給の統制強化を行ふため五月十六日現在の中央麥酒販賣會社、北海道、中部はじめ各地方の販賣會社を解散し統制會社令による麥酒配給統制株式會社を設立させたが、十二日創立總會を開き新發足した

阪本公使の告別式

【ベルリン十二日發同盟】スイス駐劄故阪本公使の告別式は十一日朝九時半から一時間公使館邸で執行された、スイス大統領フイリツプ・エツター氏をはじめ瑞西政府、中立外交代表及び在留邦人ら多數參列遺骸に最後の別れを告げた、遺骸は滿洲國外交官の手に委ねられて八月初めベルリン經由東京へ向ふ

東久世通敏伯

從二位勳五等東久世通敏伯爵は腎臟の病氣で逝去、享年七十六

點

投稿歡迎▽官製はがき二百字迄▽宛名中部日本新聞社國民局國民版「点」係

學童疎開こそ大切

△五年と三年の子女をもつ父さまに子供疎開のため親戚の數名に相談したが纏まらず、今回政府の方針で組織的に行はれる由を知り喜んでゐる、學童疎開こそは大切な少國民を敵機から護り、父兄の志を繼がせるに足る心身を鍛へる必勝布陣だ、親子の情愛をそのまゝ愛國心に止揚しなければならない、そのためには今明別れて互に勵まねばならないのだ

△疎開學童を持つお母さん達、今こそ愛兒のわが子を戰場に送る覺悟で愛兒を疎開に送り出して下さい、空襲を受けて死ぬなら子供と一緒になどと取亂したくないものです

△疎開學童父兄の惱みの種の一つは、その經濟力により疎開先での子供の生活費の負擔が擧げられてゐるが特に當局の適正な善處を願ひたい（中京の一父兄）